

# 令和5年度 指定管理者制度導入施設の管理運営状況について

都市環境整備課

## 1 施設の概要等

施設名	広島県立びんご運動公園		
所在地	尾道市栗原町997		
設置目的	備後地域住民のスポーツと多様なレクリエーション活動の振興		
施設・設備	健康スポーツセンター、陸上競技場、テニスコート、野球場、球技場、コミュニティープール、冒険の森、多目的広場、オートキャンプ場など		
指定管理者	5期目	R3.4.1~R8.3.31	イズミテクノ・RCC文化センター・シンコースポーツ共同企業体
	4期目	H28.4.1~R3.3.31	イズミテクノ・RCC文化センター・シンコースポーツ共同企業体
	3期目	H23.4.1~H28.3.31	ポラーノグループびんご
	2期目	H20.4.1~H23.3.31	ポラーノグループびんご
	1期目	H17.4.1~H20.3.31	尾道市

## 2 施設利用状況

利用状況	年度		目標値 [事業計画]	入場者数	対前年度増減	対目標値増減 (達成率)
	5期	R5		698,320人	496,915人	△11,512人
R4			674,174人	508,427人	107,678人	△165,747人(75.4%)
R3			634,174人	400,749人	△244,777人	△233,425人(63.2%)
4期平均	H28~R2		708,150人	645,526人	△26,419人	△62,624人(91.2%)
3期平均	H23~H27		667,914人	671,945人	19,073人	4,031人(100.6%)
2期平均	H20~H22		656,450人	652,872人	22,544人	△3,578人(99.5%)
1期平均	H17~H19		610,560人	630,328人	43,388人	19,768人(103.2%)
	H16(導入前)		—	586,940人	—	—
増減理由	○6ヶ月間のプール、球技場改修工事に伴う利用者の減 ○新型コロナウイルス感染症拡大前と比較し、大会規模の縮小や参加者数の減少が見られた。					

## 3 利用者ニーズの把握と対応

調査実施内容	【実施方法】	【対象・人数】
	アンケートの実施	公園利用者 325名
	利用者意見箱の設置	公園利用者 7名
	受付、打合せでの聞き取り	スポーツ団体 23団体
	【主な意見】	【その対応状況】
	陸上跳躍砂場が雨天時に利用できない	ルールを修正するとともに利用者への協力を要請
落雷による陸上競技場夜間照明故障	優先順位を設定し早急に復旧を行った	
冒険の森上散策路に倒木があり通れない	松枯れなど倒木やそのおそれがある樹木を除去した	

## 4 県の業務点検等の状況

項目		実績	備考
報告書	年度	○	事業報告書
	月報	○	月次報告書
	日報(必要随時)	○	事故等報告書
管理運営会議(3回・現地)	【特記事項等】 人件費および各種経費の上昇		
現地調査(7月、12月ほか随時実施)	【指定管理者の意見】 収支改善のため指定管理料増額や利用料金の見直しを要望		
	【県の対応】 ・感染症対策費、光熱水費高騰など一部経費について通常指定管理料とは別に委託料の増額により負担した ・改修工事を行った球技場について利用料金上限を引き上げた		

## 5 県委託料の状況

県委託料 (決算額)	年度		金額	対前年度増減	料金 収入 (決算 額)	年度		金額	対前年度増減
	5期	R5	171,078	△20,551		5期	R5	65,165	△700
R4		191,629	2,200	R4	65,865		31,202		
R3		189,429	30,677	R3	34,663		△34,623		
4期平均H28～R2		158,752	10,466	4期平均H28～R2		69,286	2,225		
3期平均H23～H27		148,286	△214	3期平均H23～H27		67,061	1,920		
2期平均H20～H22		148,500	△18,751	2期平均H20～H22		65,141	4,993		
1期平均H17～H19		167,251	△6,508	1期平均H17～H19		60,148	△1,605		
H16 (導入前)		173,759	—	H16 (導入前)		61,753	—		

## 6 管理経費の状況

(単位：千円)

項目		R5 決算額	R4 決算額	前年度差	主な増減理由等	
委託事業	収入	県委託料	171,078	191,629	△20,551	光熱水費単価減による県補填額等減少
		料金収入 (※1)	65,165	65,865	△700	利用者回復による収入増とプール及び球技場改修工事期間休業による減
		その他収入	0	0	0	
		計(A)	236,243	257,494	△21,251	
	支出	人件費	81,242	82,272	△1,030	プール休業期間中の人件費減
		光熱水費	47,542	78,938	△31,396	光熱水費単価減とプール及び球技場改修工事に伴う休業による使用量減
		設備等保守点検費	17,091	17,091	0	
		清掃・警備費等	72,172	71,902	270	危険樹木伐採費用増
		施設維持修繕費	2,210	1,862	348	老朽化及び落雷被害による修繕増
		事務局費	15,864	15,978	△114	感染症対策経費の減
その他		4,587	3,738	849	令和4年度保険料を令和3年度に計上していたことによる増	
計(B)	240,708	271,781	△31,073			
収支①(A-B)		△4,465	△14,287	9,822		
自主事業 (※2)	収入(C)	32,174	37,738	△5,564	プール休業期間中の水泳教室休講、物品販売停止による減	
	支出(D)	24,428	28,451	△4,023	プール休業期間中の水泳教室休講等による自主事業の減	
	収支②(C-D)	7,746	9,287	△1,541		
合計収支(①+②)		3,281	△5,000	8,281		

※1 利用料金制：公の施設の使用料について、指定管理者が直接使用料等を収入することができる制度。指定管理者の自主的な経営努力を発揮しやすくする効果が期待され、地方公共団体及び指定管理者の会計事務の効率化が図られる。

※2 自主事業：指定管理者が自らの責任で、更なる施設サービスの向上のために提案・実施する事業

## 7 管理運営状況

項目		指定管理者 (事業計画、主な取組、新たな取組など)	県の評価
施設の効用発揮	○施設の設置目的に沿った業務実績	<p>工事による休業等について積極的に広報しトラブルを防止した。尾道市や近隣の特別支援学校と連携し地域スポーツの推進、学習の場の提供を行った。</p> <p>工事による長期休業中、代替としてスポーツ教室や健康教室を開講した。</p> <p>プールの浮き輪貸出を開始し、ファミリー層の利用促進を図った。工事による休業期間明けの利用再開について、利用再開を周知するためのイベント等を実施した。</p> <p>落雷により園内電気設備を中心に大きな被害を受けたが、応急措置により、施設利用中止期間を最小限にとどめた。</p>	<p>工期変更に伴う休業期間の変更について、適切に周知を行った。地元自治体や教育機関とも連携し、施設の設置目的に沿った業務を行い利用促進を図った。</p> <p>工事により一部施設を休止する中、サービス水準の維持に努めた。</p> <p>工事完了後は早期に利用者数が回復するよう創意工夫して業務に取り組んだ。</p> <p>突発的な災害から迅速に復旧した。一方で小規模な不具合について、対応の遅さなどを理由に、利用者からの要望・苦情が直接所管課に入ることがあり、改善に取り組んでいる。</p>
	○業務の実施による、県民サービスの向上		
	○業務の実施による、施設の利用促進		
	○施設の維持管理		
管理の人的物的基礎	○組織体制の見直し	<p>異動等はあったが、各施設の責任者を明確にして利用者に支障が出ないようにした。定期ミーティングや社内研修により、スタッフのスキル向上を図った。</p> <p>制限が大幅に緩和され、利用者数が回復する中で効率的な運営を図った。</p> <p>光熱水費高騰に伴う電気、ガス料金の高騰について、契約の見直しによる経費軽減を図った。</p>	<p>施設の更新等に合わせ外部委託する点検業務の内容を見直すなど、効率的な業務運営を行った。</p> <p>光熱水費の高騰に対し支出の低減に努めた。</p>
	○効率的な業務運営		
	○収支の適正		
総括		<p>新型コロナ5類移行により利用状況は回復傾向にある。</p> <p>改修工事に起因する利用者数の減はあったが、代替事業や再開時期を調整し利用開始を早めるなど、利用者数と利便性の維持を図った。</p> <p>車いすスポーツの体験教室を行い、パラスポーツへの理解と参加促進を図った。</p>	<p>高騰の続く光熱水費については、契約の見直しにより効率的な縮減に取り組んだ。</p> <p>施設老朽化等に伴う大規模な改修工事があり、施設の利用が制限される中で、利用者の維持に努めた。</p> <p>施設の老朽化およびバリアフリー化の推進のため、今後も指定管理者と連携し計画的に改修工事を進める必要がある。</p>

## 8 今後の方向性（課題と対応）

項目	指定管理者	県
短期的な対応 (令和6年度)	<p>○球技場人工芝化に伴い、利便性向上と広報の強化により利用者増を図る。</p> <p>○キッチンカーマルシェ開催による賑わいの創出。</p> <p>○令和7年度インターハイ会場として施設、設備、備品を整備する。</p> <p>○パラスポーツへの理解と体験機会を創出するとともに、施設のバリアフリー化を図る。</p>	<p>○利用者ニーズに応えた老朽化改修を進め、利用者増に取り組む。</p> <p>○教育委員会等と連携し、大会に向けた施設整備を進める。</p> <p>○施設のバリアフリー化および車いす等での施設利用にあたってのルール整備を進める必要がある。</p>
中期的な対応	<p>○落雷による設備損傷の復旧および老朽化した施設と設備改修計画について県と連携し効率的な改善をはかる。</p> <p>○トイレ洋式化未実施施設の改修を推進する。</p> <p>○Park-PFI導入計画による事業運営管理の役割分担と連携の協議を行う。</p>	<p>○老朽化施設の更新と合わせ灯具のLED化を推進する。</p> <p>○トイレ改修とともに施設全体のバリアフリー化を検討する。</p> <p>○Park-PFIによる事業者と現指定管理者との調整および利用者増に対応できる環境整備を推進する。</p>